

平成 28 年度 上 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市栗野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	15,146,742円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		H28 上半期	H27 下半期	H27 上半期	H26 下半期	H26 上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	12,366	10,413	12,944	9,346	10,095
	移動児童館利用者数	1,409	1,573	1,849	1,007	1,857
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	24	25	23	24	22
	開館日数(単位:日)	157	151	156	153	156

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長(嘱託職員・非常勤)、正規職員・常勤(児童厚生員2人)、非常勤職員1人。 ③児童センターのおたより「わくわく」の発行・配布、イベントポスター掲示及びチラシの配布、報道機関への情報提供、児童館のホームページの活用。 ④苦情事例はないが、匿名の電話やメール等には臨機に対応。利用者への話しかけにより苦情やニーズを的確につかむよう心掛けている。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①指定管理者(本部)連携のもと適切に実施。備品購入・委託事業等は法人の経営する施設と一括購入及び入札をすることで経費の削減を図っている。 ②快適な環境を整備するため、職員が細やかな気配りを行った。 ③省エネ等に対する職員の意識の徹底に努めた。 ④閉館後に施設、備品等の点検を行った。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①大規模な修繕については、指定管理者(本部)及び市に要望を提出。 ②修繕を要する事態が生じた場合は迅速に対応する。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①中部学院福祉会岩野田児童センター管理規定に基づき、職員会議等で日頃から認識を意識している。 ②非常時対応マニュアルを整備し、毎月1回の職員間での話し合いや年2回の利用者を交えた避難訓練等に確認し合っている。 ③コンプライアンスの意識の徹底に努めた。

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>○ 調査期間 平成28年9月下旬 ○ 調査対象 ・幼児クラブ参加の保護者等(0歳児～3歳児の主に母親) ・小中学生(来館児童) ○ 回答者数 ・幼児保護者58人(児童3歳以上6人、2歳30人、1歳20人、0歳2人) ・小中学生77人(小1年10人、小2年17人、小3年8人、小4年14人、小5年3人、小6年13人、中学生以上7人、未記入5人)</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>【幼児保護者に対して】 ○ 児童センターを利用するきっかけは 友人から聞いた(13人)、近所なので(8人)、インターネットで(5人)、兄弟の上の子が利用していた(3人)、 ○ 児童センターを利用する目的は 子どもを遊ばせに(47人)、子育ての情報交換(13人)、ママ友づくり(6人) ○ ホームページを見るか 見る(36人)、見ない(10人) =見ると答えた人に= 問 HPの主はどこを見るか 月間行事予定(18人)、日記・ブログ(13人) ○ 幼児クラブで採り上げてほしいカリキュラムは リトミック(35人)、ボール遊び(32人)、体操(25人)、絵本(19人)、粘土遊び(17人)、手遊び(15人)、 人形劇鑑賞(12人)、スタンプ遊びなど ○ 職員の態度や対応で気づくことは いつも声をかけてくれて親切で優しい 子どもらの名前を覚えてくれてありがたい 男の先生もいるので他の児童館と違っていい</p> <p>【小中学生に対して】 ○ 児童館で好きな遊びや楽しい行事は何 ドッジボール(27人)、卓球(23人)、夏まつり(7人)、大型ブロック(7人) ○ やってみたい遊びややってほしい行事は おまつり(10人)、ドッジボール大会(8人)、サッカー(6人)、4つ角ゲーム(3人) ○ 欲しいおもちゃや読みたい本は [ほしいおもちゃ] とび箱、投げるボール、ワミー、アイロンビーズ、都道府県パズル、庭の遊具 [読みたい本] ドラえもん、ワンピース、うちの3姉妹、エリートジャック、怪傑ゾロリ、怪談レストラン、ジブリ、 英語の本 ○ 児童館職員やボランティアスタッフをどう思う いつもありがとう、やさしい、喧嘩の仲裁ありがとう、もっと一緒に遊びたい、健康に気を付けて、話しにくい、 毎日児童館を開いてほしい、怖い先生もいる</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対応・改善</p>	<p>アンケート結果の集計表及び回答項目を館内に掲示し、利用者に周知する。事業への意見等、簡易な要望に対しては、順次スピーディに事業に反映。要望、問題点の指摘に対しては、「対応が可能、いつ頃」「対応は不可能、その理由」を明確にして、幼児クラブ等で保護者に口頭で説明するとともに、下記6の回答を館内に掲示する。</p> <p><要望⇒回答> ① 駐車場をもっと広く、出入りしやすいように。⇒ できない。公式には6台、詰めれば10台以上の駐車が可能。他の児童館施設と比べても少なくない。出入りについては、園庭の構造上、改善は不可能。子どもに注意して出入りしてほしい。いい提案があればご意見を。 ② 遊戯室のガラス戸に網戸を(幼児のために)。危険なものを置かないで。⇒ できない。幼児の利用は、ガラス戸を閉めたままで行い、エアコンで温度を調節してほしい。主に小学生が遊ぶ部屋のため、豪速球のボールが飛び交う。網戸はすぐ破損する。幼児が利用する際は、極力配置物に配慮したいし、母親も注意を。 ③ おもちゃが古くて、新しいものが少ない。⇒ 古くても良質のおもちゃが多い。欲しいおもちゃがあったら、職員に申し出てほしい。購入を検討する。 ④ 小学生の自転車の置き方が乱雑であり、駐車しにくい。⇒ 小学生に自転車駐輪マナーを徹底したい。 ⑤ 幼児クラブの進め方や内容について一言。出席確認時間が長すぎる。お楽しみ会の際、グループ発表を無くしてほしい。負担が重い。⇒ 出席確認は、活動の一環。他の幼児の名前を覚える場だし、幼児が返事ができるかの成長の確認の場。発表は、お母さんたちの自主的なグループ活動の大切な機会。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	SS	SS	SS
		区分評価			SS	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	SS	SS	SS
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	A	S	S
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	S	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		区分評価			S	
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	S	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	S	S	S
		区分評価			S	
区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	SS	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価			A	
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他の団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	SS	S	S
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価			S	

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組みに対する評価</p>	<p>28年度上半期、新規事業を含め、特に力を入れた取り組みを4項目挙げてみたい。</p> <p>① 児童自らの提案で立ち上げ、実施した初の事業が2点。・その1つは、7月9日、隔月1回定期的に開催している「あそびクラブ」のクラブ員20人の提案で、小学生らにどんな遊びがしたいか「意見ボックス」を設置し、アイデアや意見を聞くアンケート調査を実施。10月中にその結果をまとめて児童館事業に反映させる予定。・2つ目が、7月2日、初めて高校生ボランティア4人の手で小学生対象に「七夕会」を実施した。大学受験を控えながらも、計画から本番まで半年かけた力の入れよう。七夕飾り作りやペープサート「七夕のお話し」などの催しに、約30人の参加があり、好評だった。</p> <p>② 他の諸団体と積極的に協働で実施した事業が2点。・1つ目、8月20日、ながら川ふれあいの森(岩野田校区)で小学生ら13人が恒例のデイキャンプを行ったが、その中のイベントの1つとして、岐阜市農林園芸課が主催する「ギフチョウのすみかづくり」に協力し、小学生らは職員の指導を受けながら、ギフチョウが好む植物「カンアオイ」の苗の補植作業に汗を流した。・2つ目は、4月29日、畜産センター公園(常盤校区)で、同公園主催の「スプリングフェスタ」の協働事業として「青空児童館」を開催した。中学生・大学生ボランティア22人も協力、525人の参加があった。</p> <p>③ 「ジュース類の持ち込みOK」。従前は、お茶・水のみ持ち込みを許可していた。些細なことだが、ある意味画期的事項。禁止事項をできるだけ無くし敷居を低くするための規制緩和の一環。ただし、飲み物の置き場所と飲む場所は指定し、ルール厳守を指導している。また、平日の放課後、勉強道具を持ち込む小学生が増える傾向に対応するために、勉強部屋を特別室として提供している。「宿題追い込みルーム」開設の延長線上の事業。</p> <p>④ 広域的な広報活動として、積極的に、新聞・テレビなどマスメディアに情報を提供した。その結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「V・わくわく隊が高齢者施設を訪問」(中日新聞28・8・6付け掲載) ・「ながら川ふれあいの森」でカンアオイの苗を補植(中日新聞、朝日新聞、読売新聞28・8・21付け掲載) ・「宿題追い込みルーム」開設(中日新聞28・8・24付け掲載) ・「宿題追い込みルーム」開設(NHKテレビ28・8・22、8・24放映) ・「宿題追い込みルーム」開設(CBCテレビ28・8・23放映) <p>以上、28年度上半期の新規事業等を列記した。</p> <p>児童を取り巻く環境が随分変化してきている。そのため、児童館利用者数も伸び悩んでいる。その要因として、まず幼児については、出生率の減少が影響、さらに、社会的要因として、3歳未満児の幼稚園の受け入れ・民間有料託児事業(幼児デイビズ事業)の増加等が挙げられる。小中学生の減少要因としては、ゆとり教育から脱却し授業時間の増加(土曜授業等)、学習塾・習い事・スポーツクラブ等の繁栄が要因と思われる。</p> <p>こうした情勢にあって、なお利用者呼び込むためには、その時に応じたニーズを適格に把握した事業を提供し続けなければならないと考え、今年度事業を進めてきた。</p> <p>その自己採点結果は、Sとしたい。</p>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<p>岐阜市の児童館に指定管理者制度が採用されたのが平成18年4月、今年度は11年目の第3期の最終年度である。「民間の手法を用いて弾力的かつ柔軟な施設運営が可能となり、利用者のサービス向上や地方自治体の経費節減が期待できる」として、同年に多くの公共施設に指定管理者制度が採用された。児童館という無料の福祉施設にこの制度がなじむかどうか当初議論された中でのスタートだった。そこで、指定管理者制度のこれまでの功罪について検証してみたが、「運営の効率性」「民活の導入」「経費節減」ひいては「市民サービスの向上」等という面から総合的にみて、結論的に、当児童センターの場合、この制度は極めて有効に機能していると考えている。</p> <p>この11年。上記の手法で、数多くの新規事業を企画・実現してきたが、当児童センター独自のオリジナル事業として定着した例を次に列挙してみたい。</p> <p>① 児童健全育成事業(主に小中学生対象事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生自主ボランティア隊「V・わくわく隊」の活動(高齢者施設訪問・交通安全街頭指導、お化け屋敷の企画運営等) ・「子ども運営委員会」 ・「宿題追い込みルーム」 ・夏(ながら川ふれあいの森 岐阜市と協働したボランティア)、秋(畜産センター公園)の年2回「ディキャンプ」 ・「ランチルーム」 ・畜産センター公園と共催で芝生広場での「青空児童館」 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこ会」 ・小中生、高校生等が自ら企画する自主事業 ・常盤小学童放課後児童クラブでの「出前児童館」 <p>② 子育て支援事業(3歳以下の親子対象の事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラブのカリキュラムの中で、「幼稚園の訪問・園児との交流」、「日赤職員からAEDの実践を含む赤十字幼児安全法を学ぶ」 ・子育て講座「母学キャンパス」3回シリーズ開催(中部学院大学短期大学部公開講座) ・父子対象「パパ友クラブ」 ・祖父母と孫対象「子育て応援セミナー」 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこ会」 <p>③ 地域組織活動支援事業(主に地域に発信する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアとコラボで運営する「夏まつり(流しそうめん)」「冬まつり(もちつき大会)」 ・ベビーカーもどうぞ本格的生演奏会「ファミリー秋のコンサート」 ・岐阜大学生による「人形劇鑑賞会」 <p>上記の具体的なオリジナル事業が実施できた背景には、11年間に培われた当児童センターの下記の特色(カラー)が定着したからだと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学との連携によるグレードの高い子育て支援策 ② 児童のボランティア意識の育成と実践 ③ 恵まれた自然環境を生かした児童の野外活動 ④ 地域の子育てネットワーク組織との協働によるキメの細かい子育て支援策 ⑤ 地域へ発信する各種活性化イベントの開催 ⑥ 移動児童館の拡充による遠隔住民へのサービス

今後の取組み

今後「児童館よどこへ行く？」。

国の児童館行政に対する姿勢は極めて希薄だといえる。昨年4月「子ども・子育て支援新制度」がスタートした。が、内容は保育行政への厚い手立てが中心であり、児童館行政に関しては触れられていない。そうした姿勢の背景には児童館数の大幅な減少もあるようだ。全国の児童館数は、平成18年4718か所が平成26年4598か所へ120か所の減少。その要因に、老朽化しても建て替えの際の自治体の財政難、児童の減少、統合などの諸問題がある。と同時に、ゆとり教育体制の反省から「遊び場所になぜ金をかけるのか」というソフト面での偏見もある。

ここで児童館の本来の重要な役割を改めて認識してみたい。「児童館は児童福祉施設の中で、唯一、全ての子どもを対象にし、子どもや親が自由に利用できる施設だ。子育て家庭や子育てサークルの支援、親や子への遊び(子どもの成長過程における遊びの重要性)提供、移動子育て支援事業、小中学生の居場所づくりなど多様な取り組みを展開している。最近では、児童虐待防止を推進するためには、子育て支援の地域ネットワークが必要になる。その中核となる児童館の役割はますます重要となっている。」

ともあれ、今後の、岩野田児童センターの進むべき具体的な方向を、国の姿勢も配慮しながら次に記したい。新支援制度の中で、唯一児童館に求められているのは、「放課後児童クラブ」に関わる項目。いわば働く母親の保育対策の小学生版。教育委員会所管の事業ではあるが、それを補完する意味で、試行も含めて検討したい事項は下記の通りである。

- ① 児童の学休日に開設している「ランチルーム」を拡充へ。
- ② 現在の常磐小学校「放課後児童クラブ」への積極的協力体制を、岩野田小学校等へも拡大しネットワークが構築できないか。
- ③ 児童センター内で勉強する環境の整備へ。夏休み後半に開設している「宿題追い込みルーム」の拡充版として、大学生のボランティアサポート体制をとり、学休日に定期的に開設できないか検討へ(学習塾へ行けない貧困児童対策)。
- ④ 「ランドセル児童館」への試行。「放課後児童クラブ」に所属していない児童を対象にランドセルのまま直接来館を許可する制度の検討へ(許可条件等)。

我々は毎日、学校の先生や親兄弟に監視されることなく、友達と自由奔放に遊ぶ児童の底抜けに明るい笑顔に接している。今後、国の立ち位置がどうあれ、この児童らのためのかけがえのない児童館を大切にしたいと考えている。

●所管課の意見

広報活動について、月刊広報紙「わくわく」を発行し、担当小学校全児童に配布するほか公民館、一部の保育園、幼稚園、病院、コンビニに配置することに加え、イベントポスターの掲示やチラシ配置をセンター以外に、小学校、近隣スーパーマーケット、コンビニ、郵便局、高齢者施設、一部幼稚園、保育園に行うなど担当区域に広報を行った。また、児童センターで実施した事業を新聞やテレビ等のマスコミに情報提供することで取り上げられ、担当地域を越え市内外にも広くPRした。

子どもたちの自主性を育てる事業として、小学生クラブ「遊びクラブ」において、クラブ員自身の提案によるやってみよう遊びを募集する「遊びアンケート」を新規で実施した。アンケート結果を踏まえ、下半期の事業に反映させるとのことで新たな展開に期待したい。

小学生自主ボランティア隊「V・わくわく隊」による地域の高齢者施設の交流や近隣道路の清掃活動、ながら川ふれあいの森において「デイキャンプ」を実施した際に、岐阜市農林園芸課が主催する「ギフチョウの住む森をつくろう」事業においてカンアオイの苗を植える作業に児童がボランティアとして協力したことなど、事業を展開する児童センターを含めた積極的な地域貢献が評価できる。

職員体制や経営状況については、問題なく運営が行われている。

●指定管理者評価委員会の意見

- ・地域活動や様々なボランティアによる事業展開など、地域の青少年育成に貢献していることを評価したい。
- ・新聞やテレビにおいて、子どもたちの活躍の情報が数多く取り上げられているため、他の児童館でも習って情報提供を行ってほしい。
- ・「宿題追い込みルーム」開設の延長線上の事業として、勉強部屋を特別室として提供していることは素晴らしい。
- ・ジュース類の持ち込みについては、賛否両論あると思われるため、再検討願いたい。
- ・大学生ボランティアの活用は素晴らしいことではあるが、安全性について配慮願いたい。
- ・利用者アンケートについて、「満足」「不満」「やや不満」などの選択肢があるが、ごく少数ではあるが「不満」「やや不満」などの意見は業務の改善や利用促進の貴重な意見であるため、「不満」「やや不満」の意見の場合、「なぜ不満なのか」、「どうなるとよいのか」を聞き取れるようなアンケートの仕組みにしていきたい。
- ・管理運営は適正に行われており、良好と認められる。